



コースNo. 104 ★東京・大阪・名古屋発着

多様性の尊重と世界一の教育制度を学ぶ
フィンランド教育関係視察研修

8日間

旅行代金(東京発着) お一人様あたり

出発日	旅行代金(燃油サーチャージ込)
8月24日(月)、9月14日(月)	378,000円
名古屋・大阪発着追加代金	20,000円
札幌・福岡発着追加代金	22,000円
1人部屋追加代金	66,000円
相部屋条件:6/15までの相部屋希望を受け付けます。期日以降はP5をご覧ください	

- 食事:朝食6回・昼食1回・夕食1回(機内食を除く)
- 最少催行人員:4名(定員21名)
- 添乗員:添乗員は同行しません。現地係員がお世話します。
- 利用予定ホテル:ヘルシンキ…オリジナルソスアレジデンティ、スカンディックパーク
タンペレ…オリジナルソスウィラ、スカンディックタンペレコスパイスト、スカンディックタンペレハーメンパイスト、ホリデイインタンペレセントラルステーション、ラディソンビルグランドホテルタマル、オリジナルソスイルグス、ソノソコホテルトルニタンペレ、スカンディックタンペレシティ、ラップランドタンペレ

- 利用航空会社:フィンランド航空(エコノミークラス)
- パスポート残存期間:出国時3ヶ月以上+旅券の査証欄の余白が2ページ以上必要
- ※下記は旅行代金に含まれませんので、旅行代金と合わせてお支払いください。(2020年3月1日現在)
- 日本国内の空港施設使用料(成田:2,130円、関空:2,780円、中部:2,620円)、旅客保安サービス料(成田:530円、関空:320円)および国際観光税1,000円

【札幌・福岡発着の方へ】
国際線の発着は原則成田空港となり、国内線は別手配となります。満席等で予約できない場合はご利用いただけません。基本、往復羽田便での手配となり、羽田〜成田空港間は各自移動、交通機関はお客様自身の手配・負担となります(移動例:リムジンバス片道3,200円/2020年3月1日現在)。また、乗り継ぎによって前後泊となる場合も宿泊費はご自身の負担となります。P33の注意事項を必ずご確認ください。

【大阪・名古屋発着の方へ】
国際線の発着が成田空港となり、国内線が羽田便となる場合があります。その際、羽田〜成田空港間は各自移動となり、交通機関はお客様自身の手配・負担となります(移動例:リムジンバス片道3,200円/2020年3月1日現在)。また、乗り継ぎによって前後泊となる場合も宿泊費はご自身の負担となります。P33の注意事項を必ずご確認ください。
※このツアーは視察費用の一部60ユーロを別途現地でお支払いいただいております。また視察訪問団の一員として簡単なお土産(折り紙・おもちゃ等)を持参いただけます。詳しくはお申込後にご案内いたします。

日程

8/24(月)	成田・関空・名古屋	10:00~13:00 空路ヘルシンキへ(直行便または成田空港乗換)	☑
9/14(月)	ヘルシンキ	13:00~16:00 到着後、係員の出迎えを受けタンペレへ	☑☑☑
8/25(火)	タンペレ(公共交通機関・徒歩)	【午前】オリエンテーション 【午後】地方自治教育行政に関する講義 【夕刻】タンペレ市内観光(タンペレ大聖堂、ビューニッキの丘など)	☑☑☑
8/26(水)	タンペレ(公共交通機関・徒歩)	【午前】基礎学校訪問 【昼】訪問先学校にて給食 【午後】タンペレ市内図書館訪問 【夕刻】ムーミン美術館見学(自由参加) P11参照	☑☑☑
8/27(木)	タンペレ(公共交通機関・徒歩)	【午前】保育園見学 【昼】タンペレ大学食堂(費用各自) 【午後】タンペレ大学教育学部棟訪問 フィンランドの教員養成システムについての講義 18:00頃 フィンランドレストランにて夕食交流会	☑☑☑
8/28(金)	タンペレ(公共交通機関・徒歩)	【終日】自由行動 OP オプション研修(別料金、自由参加)実施予定 【午前】ネウボラ見学 【午後】高校/特色のある学校見学	☑☑☑
8/29(土)	タンペレ	【午前】係員の案内で、ヘルシンキへヘルシンキ市内観光をして夕刻ホテルへ(元老院広場・大聖堂、マーケット広場、エスプラナーティ通り北欧デザインショップなど) 希望により世界遺産スオメンリナ島やマリメッコアウトレットも(移動各自)	☑☑☑
8/30(日)	ヘルシンキ	ホテルチェックアウト後、出発まで自由行動 指定時間に再集合、係員とともに空港へ 16:00~19:00 各自チェックインし、空路、帰国の途へ(直行便または成田空港乗換)	☑☑☑
8/31(月)	成田・関空・名古屋	08:00~11:00 着後、解散	☑☑☑

旅行企画・実施 全国大学生生活協同組合連合会 旅行センター

※上記日程は訪問先や講演者の都合により変更になる場合があります。
※タンペレ市内の移動方法は、一部専用バスを利用する場合もあります。



「落ちこぼれ」をつくらない教育

OECDの学習到達度調査(PISA) (科学的リテラシー) 2018年

OECD(経済協力開発機構)の実施した国際的な学習到達度調査(PISA)で、毎年上位にランキングされるフィンランド。でもフィンランド教育の本質はそれだけではありません。フィンランドの教育の特徴のひとつが「落ちこぼれ」をつくらないことであり、18歳までに社会生活ができる人間として自立させることが目標だといいます。子どもの発達に応じた教育が、保護者の経済状況に関わらず平等に保障されている社会システムとその背景にあるものを、実際の教育施設の訪問を通して学んでいきます。

★PISAとは…OECD(経済協力開発機構)が実施した総合的な学力を測る学習到達度調査。2018年には世界79か国・地域の義務教育修了段階15歳の生徒約60万人を対象に実施した。知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかどうかを評価する。2018年調査では科学的リテラシーを中心分野として重点的に調査した。

フィンランドの教育 あれこれ

落ちこぼれを作らない取り組み

フィンランドの学校では、日々の授業の中で充実した学習支援が行われています。教師たちは、各学校に配置されている特別教師と密接な協力関係を結び、少人数授業や個別授業、補習や補助員の加配など、様々な形で子どもたちの学習をサポートしています。何らかの支援を受ける子どもは全体の2割前後。これがフィンランドの学力を押し上げている一つの要因ともいえます。親もこの支援を権利として受け止めています。

公共図書館の充実

フィンランドの子どもたちの「読解力」を高めている存在が充実した公共図書館です。読書教育では、学校や学校図書室との協力関係も築いています。フィンランド国民の図書館利用率もたいへん高く、国際的にも注目されています。

基礎教育学校(イメージ)

◆フィンランドの教育制度は、義務教育である総合学校、義務教育後の一般教育及び職業教育、高等教育(大学・大学院教育)、成人教育から成り立つ。2000年より全自治体での就学前教育の提供も義務化、各保育所で6歳児を対象に実施されています。90年代に国の権限を地方や教育現場に委譲する改革を行い、学習指導要領もかつての10の厚さに減らされています。教員になるには最低、修士資格が必要で、質の高い教育が行われています。教育は公用語であるフィンランド語またはスウェーデン語で行われ、スウェーデン語を話す少数派(人口の6%)にもフィンランド語を話す人々と同等の教育機会が保障されています。

「フィンランド中学校現代社会教科書-15歳市民社会へのたびだち」

監訳:高橋隆子、訳:ベリ・ニエメラ、藤井ニエメラみどり(明石書店)

フィンランドの中学3年生が学ぶ社会科教科書の翻訳。OECDの調査で高い学力を誇るフィンランドの市民教育として注目される。北欧民主主義の政治制度や福祉システム、EUのしくみなども、わかりやすい、日本の次世代の市民のあり方を考えるヒント満載。

※「フィンランド中学校現代社会教科書-15歳市民社会へのたびだち」の翻訳者藤井ニエメラ・みどりさんにはフィンランド教育視察の現地プログラムにご協力いただいております。

- 参考図書
- ◆「競争やめたら学力世界一」 福田 誠治 (朝日新聞社)
 - ◆「フィンランドに学ぶ教育と学力」 庄井 良信/中嶋 博編 (明石書店)
 - ◆「フィンランド 育ちと暮らしのダイアリー」 藤井 ニエメラみどり (かもがわ出版)

参加者の声 早稲田大学 4年

「フィンランドは世界一の教育を行っている世界一幸せな国である。」多くの人がそう言うが、はたしてそれは本当なのだろうか。また、それは一体どのような教育なのだろうか。こんな疑問から私は今回このツアーに参加することを決意した。ツアー参加者は大学も学年も別々。それでも「教育」関係に興味があるという共通点があり、すぐに打ち解けることができた。私にとっては普段出会えない人たちに会うことができた貴重な機会となった。そんな仲間たちと共に、保育園から大学まで全ての教育機関を視察した。最も印象に残っているのは、訪問先の先生方全員が口にしてきた「平等」という言葉。フィンランドの教育制度は、「平等」の基に成り立っているということだった。その「平等」を実現しているのは国民全員。国民は24.3%という異様なほどに高い税金を子どもへ投資している。故に、フィンランドでは誰もが無償で学校に行くことができる。共働き家庭がほとんどである中で、子どもは国の宝物。故に母親父親だけでなく、国全体で育てていくという意識を持った人々で溢れている環境がそこにはあった。フィンランドは決して裕福な国ではない。資源が乏しいからこそ、全員が危機感をもって教育改革を行い、国を守ってきた。日本が真似るべきところは、この教育制度そのものではなく、その背景にある国民一人一人の「在り方」ではないだろうか。少なくとも私はこの研修を通して、さまざまなことを学び、強く思った。もっと一人ひとりが自立して、支え合い、信頼し合うべきだろう。こういった話を含め、視察や各大学で学んだことを踏まえて未来の日本の教育について仲間たちと夜に沢山語り合うことができ、研修全体が非常に充実した時間となった。これからの日本を創っていくのは私たちである。決してこの研修で学びを終わらせることなく、今後学び続けていきたい。今回の研修はこれからのスタート地点にすぎない。そしてこの研修で出逢った仲間から学んだことをこれから活かす。本当に感謝したい。